



# 女性活躍推進の取組

くらし・環境部 県民生活局

1

## 男女共同参画の現状・課題

「男性は仕事、女性は家事・育児」という固定的な性別役割分担意識にとらわれない人の割合(※1) **73.1%**

一方で…

- ・社会全体における男女平等感 「男性優遇」と感じている人の割合(※1) **70.7%**
- ・家庭における男性の家事・育児関連時間 (※1) **女性の約1/4** (男性2時間50分 / 女性12時間5分)
- ・事業所の管理職に占める女性の割合 (※2) **課長相当職: 14.9%**
- ・都道府県版ジェンダー・ギャップ指数 (「経済」分野) (※3) **47位**

⇒ **人々の意識は変化しているものの、社会の制度や慣行を見直す行動変容に結びついていない**

### 第3次静岡県男女共同参画基本計画 (令和3～7年度)

#### 「女性活躍推進に関する施策の柱」

- 職場・家庭・地域における固定的性別役割分担からの脱却
- 政策・方針決定過程の場やあらゆる職域への女性の参画拡大

※1 静岡県の男女共同参画に関する県民意識調査 (2021)

※2 静岡県雇用管理状況調査 (2022)

※3 地域からジェンダー平等研究会(2023)「都道府県版ジェンダー・ギャップ指数2023」

## 男性の家事・育児参加促進出前講座

女性活躍の課題となっている「女性の仕事と家事・育児の二重負担の解消」には、男性の家事・育児への主体的な参加が不可欠であることから、男女がともに家事に取り組む「家事シェアリング」を一層促進するための出前講座を開催

対 象：事業所の若手従業員、管理職等



男女がともに家事に取り組むメリットやヒントをまとめた「家事シェアリング」冊子を活用

## 男女共同参画の視点からの防災対策の推進

地域防災活動への女性の参画を促進するための研修や人材育成を実施

### ●災害対応力を強化する男女共同参画の視点研修

対 象：市町防災担当職員、自主防災組織役員等  
実施場所：各地域局（賀茂、東部、中部、西部）  
内 容：講義及びワークショップ

### ●地域で活躍する女性防災リーダー育成講座

延べ育成数 355人（平成25年度～令和4年度）  
令和5年度実施予定  
日 程：令和6年1月20日（土）、28日（日）  
会 場：川根本町文化会館（川根本町と共催）



## 「あざれあ」を中心とした啓発

## あざれあ30周年記念事業

県の男女共同参画の推進拠点である男女共同参画センター「あざれあ」では、ジェンダー平等・女性活躍に関する様々な啓発事業を実施  
今年、あざれあ開館30周年を記念した講演会を開催

あざれあ開館30周年記念事業

### 上野千鶴子講演会

ジェンダー平等の未来のために  
あなたにできること

2023年  
10月28日（土）

参加費無料  
要事前申込

※8月1日（火）10:00受付開始

【式典】13:30～13:45 来賓挨拶 川勝平次静岡県知事  
【記念講演】13:45～15:30 上野千鶴子氏  
【サイン会】15:30～16:00 書籍販売及びサイン会

あざれあメッセ2023事務局（NPO法人あざれあ交流会議事務局）にて受付  
申込先：あざれあメッセ（国・都道府県）電話：054-250-3147（平日9:00～18:00）  
申込フォーム（国・都道府県）電話・Emailにてお申込ください。  
申込必要事項：氏名・連絡先  
※お申込の際には必ず個人情報は、当事務局の管理のもとに厳重に保管いたします。  
主催：あざれあ交流会議グループ 協力：静岡県くらし・環境部市民生活局男女共同参画課

### 【記念講演】

開催日 令和5年10月28日（土）  
講 師 社会学者・東京大学名誉教授 上野千鶴子 氏  
テーマ ジェンダー平等の未来のためにあなたにできること  
参加者 約300人



## 静岡県男女共同社会づくり活動に関する知事褒賞

7月30日の「男女共同参画の日」にちなみ、男女共同参画や女性活躍の推進に関する優れた取組を行う個人、団体、事業所を顕彰



### ◆男女共同参画推進の部

(個人・団体)

### ◆女性活躍推進事業所の部

### ◆チャレンジの部

令和5年度受賞者

- ・男女共同参画推進の部  
個人 1人、団体 1件
- ・女性活躍推進事業所の部 5件
- ・チャレンジの部  
個人 1人、団体 2件

5

## 取組事例

## 政策・方針決定過程の場やあらゆる職域への女性の参画拡大

### 女性活躍加速化フォーラム

令和5年11月13日(月) あざれあ

女性の管理職登用や女性が働きやすい職場づくりには、経営者のコミットメントが重要であることから、女性活躍に取り組むことによる経営へのメリット、効果的に取り組むためのポイントやトップの役割等について共有するフォーラムを開催



#### 基調講演

(株)新日本科学

代表取締役会長兼社長 永田 良一 氏



#### パネルディスカッション

女性活躍が推進されている組織とは？  
～求める理想像とトップの役割～



フォーラム終了後、「ふじのくにさくや姫  
交流会」を開催。女性のキャリアづくりや  
働き方を考える機会を提供



### 内閣府「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」への参加

本県における女性活躍の推進の輪を拡げ、優秀な人材の確保と定着を図るため、内閣府が主催する「輝く女性の活躍を加速する男性リーダーの会」に知事が参加

全国の企業経営者、知事・市町村長等 316名が参加 (令和5年9月末現在)

行動  
宣言

輝く女性の活躍を加速する  
男性リーダーの会

6



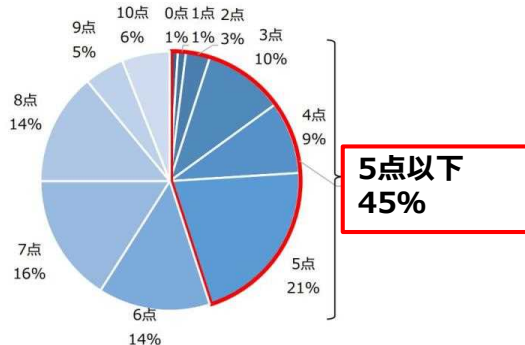
# 女性活躍推進のための新たな視点

## 女性活躍推進のための新たな視点として取り上げられているのが、 「女性特有の健康課題」

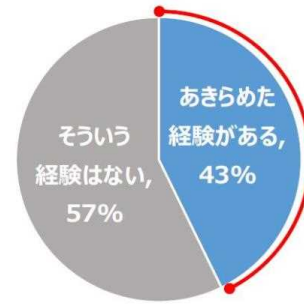
- ・ 女性特有の健康課題である月経や月経前症候群により**多くの女性が仕事のパフォーマンス低下を経験** . . . **元気な状態を10点とした場合、5点以下が4割以上**
- ・ 女性特有の健康課題などにより、**職場であきらめなくてはならないと感じた事がある女性** . . . **4割以上**

▶ 「女性特有の健康課題」は、女性の就業やキャリア形成に大きく影響

月経に関連した症状による仕事のパフォーマンスへの影響  
(元気な状態を10点とする)



女性特有の健康課題などにより、職場であきらめなくてはならないと感じた事がありますか



出典:働く女性の健康増進に関する調査2018(日本医療政策機構)より

出典:働く女性の健康推進に関する実態調査(経済産業省2018)

こうした課題を解決するツールとして、「フェムテック」が注目されている。

【フェムテック (Femtech)】

Female (女性) と Technology (技術) を掛け合わせた造語で、女性の健康課題をテクノロジーで解決する製品やサービスのこと

## 「フェムテック」を活用した女性活躍の推進

### フェムテックを活用した女性活躍支援事業 (令和4年度)

働く女性の月経・更年期等、女性特有の健康課題と仕事の両立に関する悩みや不安等の解消のため、県内企業等と連携してフェムテックを活用した実証試験を実施

**フェムテックを活用した働く女性応援プログラム** (無料)

**プログラムの目的**  
 職場では女性特有の健康課題と仕事の両立に関する悩み、不安の解消に向けてフェムテックを活用したサービスを実施。企業で活躍する女性社員が健康にこれらもイキを働いていただくために参加したい!

**フェムテック (Femtech) とは?**  
 Female (女性) × Technology (技術)  
 ITやAI等の最新技術を活用して女性の健康課題を解決する製品やサービスです。

**プログラムご参加のメリット**

- 1.メディアでも大人気の産婦人科医 高尾美穂先生のセミナーを受講できる!
- 2.女性特有の健康課題について、チャットや電話でいつでも産婦人科医等に相談ができる! (自身の子供の健康についても小児科医に相談ができる)

参加企業数	ふじのくに女性活躍応援会議参加企業等 21社
内容	意識調査 女性特有の健康課題と仕事の両立に係る意識調査の実施
	オンラインセミナー ヘルスリテラシー(健康や医療に関する正しい情報を入手し、理解して活用する能力)向上を目的としたセミナーの提供
	オンライン相談 ・オンライン相談(匿名・無料)の実施 ・助産師、薬剤師等によるカウンセリング
効果測定	提供サービス等の利用状況の分析・効果検証

#### 【女性特有の健康課題と仕事の影響】

女性特有の健康課題である月経、月経前症候群、更年期症状などが**仕事に影響を及ぼしていると感じている** . . . 66.6%

#### 【実証試験の結果】

**産婦人科の受診や更年期障害の認識等について、ヘルスリテラシーの向上により改善がみられた。**

(産婦人科の受診に対する意識の向上)

・困りごとがあったが受診しなかった . . . 27.7% → 21.9%  
(更年期障害の正しい認識の向上)

・病気である . . . 58.9% → 71.9%

#### 【今後の展開】

働く女性の活躍には、共に働く人が、ライフステージに応じた女性の健康課題を理解することが必要である。今回の実証試験の結果を踏まえ、誰もが働きやすい職場づくりのため、女性の健康課題への理解を広げていく。